



2024年12月発行 第1号

福井県子どもNPOセンターの
ホットな情報をお届け



こどもchannel

～かわらばん～

表現ひろば

劇団【プラム】2024年度活動中！

公益財団法人公益推進協会JM基金助成事業

【6/29(土) プラムフェス開催】

アピタ福井大和田店にて

団員 北岡瀧作『邪馬台国福井説』を上演。劇場ではなく、ショッピングセンターで買い物中の方たちの足を止めて、自分たちのお芝居を観ていただくという貴重な経験をしました。

【7/14(日) 新メンバー入団！】

初めはまわりの様子をうかがいながら活動していた新メンバー。団員同士、互いをリスペクトしあって主体的に活動している稽古場に、顔を出すごとに変わっていく団員の姿が見られます。

ひとりひとりが、まわりとコミュニケーションをとりながら、やりたいことをどんどん実現しています。

現在13人で活動中！

【9/22(日) 実験公演開催】 家族・知人に向けた限定公演 福井県社会福祉センターにて

舞台『六人の乗客』北岡瀧 作上演

映像『宝山2024』中川陽太郎 作上映

舞台チームと映像チーム、各々やりたい方に分かれて発表しました。両作品とも団員が書いた台本を演出し、演じました。当日は団員の友人もたくさん観に来てくださり、入団したいと言ってくれた高校生もいました。

【11/23(土) Another Morning Festivalに出演】

福井大学文京キャンパスにて

福井大学医学部主催のイベントに舞台公演『六人の乗客 作/北岡瀧』とブースにて過去の上演作品などを上映しました。当日のちょっとしたハプニングにも団員たちの力で乗りきっていた姿は、とてもたくましく感じました。

今後の動き！

【12/21(土) クリスマス文化祭(仮)に出演】

木田公民館にて 羽水高校PBL3h主催

※詳細は改めてSNSでお知らせします

【1/13(月祝) 中高生対象 舞台裏方ワークショップ開催】

福井県県民ホールにて

※詳細は改めてSNSでお知らせします

【2/22(土) 大人対象 講座

『演劇の持つ可能性とその力』開催】

NHK高校講座で演劇ワークショップ担当の花崎攝 氏にお話をいただきます。 ※詳細は改めてSNSでお知らせします



ふくいチャイルドライン

今年度で、ふくいチャイルドラインは常設から24年がたちました。毎年、県内すべての小・中・高校・特別支援学校に電話番号カードを配布しています。誰かに話を聴いてもらいたい、何気ない会話から悩みなどで、子どもたちが電話をかけてきています。

【8/3・4チャイルドラインキャンペーン 実施】

チャイルドライン啓発活動として、おもしろフェスタin サンドーム福井2024で、子ども縁日をしました。今回はチャイルドラインを体験してもらおうと、パネル越しに話ができるコーナーを設けました。また、「つぶや木」を作り、話せなくても、文字や絵などで思いを表すこともできるようにしました。500名以上の親子が参加しました。

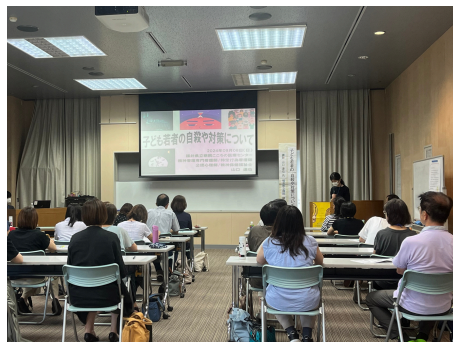


【受け手ボランティア養成講座・公開講座 開催】

電話を受けるボランティアの養成講座を実施しました。同時に、子どもの育ちに関心のある方を対象に公開講座をひらき、子どもの実態を参加者で考えました。

現在、県内に2か所の活動場所があり、今年度、嶺南に増設する準備を進めています。今年の養成講座、公開講座は敦賀にサテライト会場を設けました。

子どもに関心のある方が身近な地域で活動することができるように、チャイルドラインのつながりを広めていきたいと思っています。





子どもの声が聴かれる社会を目指して

【子どもアドボカシー基礎講座】

前年度に始動した子どもアドボカシー事業。7・8月に基礎講座を開催しました。当センターでの開催は2回目。今回は、県外の方で専門的立場にいる参加者が多く、グループワークでも具体的な事例があがっている様子が見られました。

全国で自治体がアドボカシー事業を進めている影響もあり、子どもアドボカシー学会でも各地で基礎講座が開催されています。センターが先頭に立って、福井県のアドボカシー事業を推進していきたいと思っています。

今年度中に、基礎講座の次のステップとなる専門講座を開催する予定です。

子どもと文化企画



【人形劇 エルマーとりゅう】



7/31・8/1・2に劇団プークによる人形劇「エルマーとりゅう」の公演を開催しました。越前市文化センター・福井県県民ホールでの公演で約1200人が鑑賞しました。人形が客席まで下りてきた時には、子どもたちの歓声がわきおこり、キラキラした表情が見られました。テレビやインターネットの映像で得られるものとは違う、生の舞台だからこそのワクワクがホール中にあふれていました。



【10/5(土)・6(日)】

わくわくにっこり口ハスマーケット
in 金津創作の森

前日まで雨が降っていたこともあり、外での開催を諦めて室内で遊ぼうと準備していましたが、お天気が回復し、屋外で開催することができました！！

大きく真っ白な布に自由に絵を描いたり、木のつみきをひたすら並べたり積んだり、芝生の上で寝っ転がっていたりと、思い思いに過ごしている子どもたちの姿が見られました。

子ども
フリーマーケット
したよ！

【10/12(土) 市場フェスタ】

福井市中央卸売市場開設50周年記念

市場で、バナナのたたき売りやマグロの解体ショーなどのにぎやかな声が飛び交う中で、子どもたちは「いらっしゃいませー！」の呼びこみを頑張り、楽しそうに接客をしていました。たくさん買ってもらえたようで嬉しそうでした。

スマートボールや千本引きなどの『子ども縁日』も開催したので、たくさんのこどもたちが市場で遊び、可愛い笑顔がたくさん見られました！



つぶやき

みなさん、「子どもの権利条約」を知っていますか？

1989年に国連が作った条約で、全ての子どもが持つ権利を保障するための、世界中の国々が守るルールです。日本は1994年に批准して、今年で30年が経ちました。去年4月にようやく「こども基本法」が施行され法律ができたことで子どもの権利が保障される社会になることが期待されています。いくつかNPOセンターが大切にしている条文を、今の子どもたちの状況を絡めてお話しします。

今回は第31条「休む・遊ぶ権利」です。子どもには休息をとり、年齢にあった遊びを楽しむ権利があります。この権利はNPOセンターの核となっています。子どもは遊んでいるから「権利」を保障しなくても大丈夫だと思う方も多いでしょう。もしかして、その考えこそ子どもの遊ぶ権利を侵害しているかもしれません。本当に子どもたちは遊んでいるのでしょうか？放課後や休日でも学校の時間割のようにスケジュールが組まれていて、忙しくしている子どもたちがいます。もちろん好きでやっていることもあるかもしれませんが、ここでの「遊び」「休み」は子どものペースで子ども主体であることが大切です。プレーパークを開催する時も、こども主体を意識しています。大人は遊びを主導することはありません。「何すればいい？」と言う子どもに「何でもいいよ」と言うと、最初はとても困った顔をします。しかし、こちらが遊びを提供しなくても子どもは遊び方を見つけます。いつの間にか遊んでいるのです。この関わりが遊ぶ権利を保障するということだと思っています。

お問合せ



認定NPO法人
福井県子どもNPOセンター

☎0776-97-8460



ホームページ



Facebook



Instagram



X